

三育学院大学卒業式 式辞

卒業生の皆様、そしてインターネットでご覧下さっているご家族、保護者、そしてご友人の皆様、おめでとうございます。また、看護の学びをいつも応援して下さい、いる東京衛生アドベンチスト病院、神戸アドベンチスト病院、沖縄メディカルセンターをはじめ、多くの皆様に御礼申し上げます。

今回の式は、新型コロナウイルスの感染が拡大し緊急事態宣言下で行われております。そのため、様々な制約を受けることになりました。保護者の皆様に式にご参加いただきたいと卒業生と共に私たち教職員は願っておりました。しかし、危機的な局面に対し、わたしたちは日本の社会と共に、力を合わせてこの事態に立ち向かわなければなりません。皆様の御理解をお願いいたします。

卒業式は、通常カレッジ神学科と共に行って参りました。今回は、感染のリスクを考え国家試験の翌日に天沼教会のご協力をいただき実施することに致しました。教会の皆様へ感謝いたします。天沼教会の放送設備はすばらしく、教会の放送スタッフのご協力により、リモートでこの式にご参加くださっている皆様はとても鮮明な画像音声でご覧になっていらっしゃると思います。

また、この荻窪は、三育学院大学看護学部の前身である東京衛生病院看護婦学校が1928年に開学した、すなわち三育学院の看護教育がスタートした由緒ある場所でもあります。三育学院の看護の伝統を引き継ぐ皆様にとってふさわしくまた意味ある場所での卒業式であります。

さて、卒業生の皆様はこの4年間三育学院で学ばれました。4年間を振り返ると楽しいこと、嬉しかったこと、苦しい経験もあったでしょう。皆様が経験された一つ一つにどのような意味があったのか簡単には答えられないように思います。事柄の本質が見えるまでには何年もかかることがあります。しかし、もしかすると、皆様の何人かは感じ取っているかもしれません。苦難や困難にも意味があることを。自分自身の経験から。あるいはキャンパスで、病棟の実習で、出会った人の言葉や人生からそのように考えていらっしゃるかもしれません。

三育学院の看護教育の伝統の土台である聖書には、このような言葉があります。しばらく前からこの聖書の言葉の意味を考え続けています。そして、卒業される皆様には是非紹介したいと思うようになりました。

式次第に印刷されているローマの信徒への手紙 5 章 3 節から 5 節です。

「そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。希望はわたしたちを欺くことはありません。

わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。」

ローマの信徒への手紙 5：3-5（新共同訳聖書）

苦難がただちに希望ではありません。苦難イコール希望ではないのです。この聖句にあるように、時を経て、幾多の経験を通して苦難から希望に至るのです。苦難は苦難で終わらなければならないのではありません。苦難から希望へという道筋があるのです。

わたしは、今は教員ですが、かつては、教会の牧師として働いていました。そこで苦難を経験している人、困難な状況にある家族に寄り添う人達と出会いました。そして、苦難が苦難で終わるのではなく、苦難が希望へと変わっていく姿を見る機会が幾度もありました。それは驚きであり、心に深く残る経験となりました。では、どのようにして苦難から希望へと至るのでしょうか。

聖書の言葉によれば、「神の愛がわたしたちの心に注がれている」からです。苦難の時も、忍耐の時も、神の愛がわたしたちの心にまっすぐに注がれ続けていると表現されています。愛が希望に至る根拠です。愛は、与えられるもの、受け取るものとして描かれています。聖霊の神の働きは、わたしたちの心に愛をそそぐことです。苦難から希望に至るその道のりを支えるのは愛です。

わたしたちが、そしてわたしたちが会う、苦難を経験している人達が、苦難を越えて希望に至るとすればそこに愛があるという聖書の言葉を心に深くとめたいと思います。

ときどき思い出す言葉があります。ご紹介します。

「大事をなそうとして力を与えてほしいとあなたに求めたのに
つつしみ深く従順であるようにと弱さをさずかった
より偉大な事ができるように健康を求めたのに
より良き事ができるようにと病弱が与えられた
幸せになろうとして富を求めたのに
賢明であるようにと貧困をさずかった
求めたものは一つとして与えられなかったが、
願いはすべて聞き届けられた
私はあらゆる人の中で最も豊かに祝福された者」

ニューヨーク リハビリテーション研究所の壁に書かれた一患者の詩

この作者は、「求めたものは一つとして与えられなかったが、願いはすべて聞き届けられた」と書きました。どうしてそのように思えるようになったのでしょうか。さらに「私はあらゆる人の中で最も豊かに祝福された者」と宣言するかのような確信はどこからきたのでしょうか。

わたしは、この詩から暖かい言葉とふるまい、そして適切な医療を提供している医療者の姿を想像します。しかし、ここでわたしたちは一つの課題に直面します。いつも暖かい心で、あるいは愛を注げるかという課題です。プロフェッショナルであっても心が揺れ動くことがあります。そのようなとき、学院で繰り返し経験してきた祈り求めることを思い起こして下さい。暖かい心、そして愛を与えて下さいと祈り求めてください。祈りは謙虚な姿勢です。ある神学者が、「人間によって自由にならない次元がある」と言っています。そんな場面に直面したとき、祈り求めてください。三育学院の卒業生として祈り求める看護師でいてください。

卒業生の皆さまの存在と医療者としての働きを通して、多くの方が苦難から希望へと至るように心から願っています。

この世界は、希望の光をかかげる人物を必要としています。

皆様は世界で必要とされている人物です。

卒業生おひとりおひとりの前途に神の祝福を心よりお祈り致します。

2021年2月15日

三育学院大学

学長 東出克己